

平成21年度事業報告

財団法人 滋賀県陶芸の森

1 事業概要

滋賀県の伝統文化にして重要な産業である信楽焼をベースに、個性にあふれ、なごめる地域づくりの拠点を目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、また、陶芸館や創作研修館、産業展示館の三つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として、積極的な事業の展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与している。

平成21年度は、滋賀県経済振興特別区域に認定された「国際陶芸産業都市特区」のメイン事業である「信楽まちなか芸術祭」（信楽陶芸トリエンナーレ）の実行委員会に参画し、様々なイベントの企画に携わるとともに、陶芸の森がこれまでに蓄積してきたネットワーク等を活用し、新しいデザインの信楽焼の商品開発を支援するなど、信楽焼陶器産業の活性化に努めた。

2 事業実績

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園や施設を安全かつ清潔に保ち、芝と植栽の管理に努め、入園者に快適な空間とサービスを提供した。総入園者数 324,560人

ア 公園の魅力の向上

(ア) 緑化の推進

「滋賀県緊急雇用創出特別推進事業」として、4名の職員を雇用し、外国人を含め、多くの観光客が楽しめるよう季節の花々の植栽などを行った。

イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

(ア) しがらき学ノススメ(実施回数24回、参加者数 446人)

やきものファンを対象に、やきものについて広く学んでもらえるよう体験講座を開催した。

(イ) イベントの開催

やきものをテーマにしたマーケット等を開催し、県内各地で活躍する陶芸家の個性豊かな陶芸作品を広く県内外の人々に紹介するとともに、陶芸に関する交流の場を提供した。

信楽作家市の開催

平成21年5月2日(土)～5日(火) 4日間 入園者数66,192人

セラミック・アート・マーケットの開催

平成21年10月10日(土)～10月12日(月) 3日間 入園者数21,600人

(2) 地元陶器産業の振興に関する事業

信楽焼の伝統技術や国内外の多様な陶磁器制作技法を紹介する機会を提供した。また、海外からデザイナーを招聘し、地元企業と共同で信楽焼の商品開発に取り組んだ。

ア 信楽焼の伝統技術の継承

唐津焼の陶芸家中里隆氏（佐賀県）を講師に招き、信楽焼の若手作家を対象に、ろくろによるうつわづくりを学ぶ場を提供した。

イ 信楽焼の新商品開発の促進

(ア) フィンランド・デザイン研究会

陶器デザインの先進国フィンランドのプロダクト・デザイナーのペッカ・パイカリ氏を招き、地元企業と共同で「洋風のつくばい(手水鉢)」と「傘立て」の商品開発を行った。

(イ) 「OFURO」と「ガーデン・ファニチャー」

陶芸家森野彰人氏（京都府）が加飾を施した風呂桶「OFURO」の製造や陶芸家池田晶一氏（愛知県）作成のモデルを元にした「ガーデン・ファニチャー」の制作など、いずれも地元企業と共同で取り組んだ。

(ウ) 信楽焼新ブランド創出支援事業

「滋賀県緊急雇用創出特別推進事業」として職員を1名雇用し、新商品の試作品の制作を行った。

ウ 信楽産業展示館の管理運営事業

信楽焼産業の振興と市民の文化向上に資するよう滋賀県立陶芸の森の設置目的と調和させながら信楽産業展示館の運営および施設利用の活性化に努めた。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア 展覧会開催事業

(ア) 「やきもの動物パラダイス」と「滋賀のやきもの」

平成21年4月1日(水)～4月12日(日) 11日間 入館者数1,561人 (平成20年度からの継続事業)

収蔵品を中心に、アジアや南アメリカそして国内の形象土器から現代作家たちの動物作品の数々を人と動物とのかかわりを通して紹介する「やきもの動物パラダイス」展と、歴史の中で培われた滋賀のやきもの文化を一望する「滋賀のやきもの」展の二つの展覧会を同時開催した。作品約120点を展示。

平成21年4月25日(土)～7月5日(日) 63日間 入館者数 6,034人

ニューオータニ美術館(東京)において巡回展示

(イ) 「陶の“うつわ”と“かたち”」

平成21年4月19日(日)～9月12日(土)

収蔵品から陶表現の魅力を二回シリーズで紹介した。作品292点を展示。

〔Part1〕使ってみたい 愉しみの“うつわ”／心潤す 癒しの“かたち”

平成21年4月19日(日)～6月28日(日) 62日間 入館者数 8,694人

生活と「やきもの」をテーマに“うつわ”の魅力に迫るとともに、表現としての“うつわ”や静寂と詩情感をみせる陶の“かたち”を紹介した。

〔Part2〕華やぎと味わいの“うつわ”／驚きと発見！ユーモラスな“かたち”

平成21年7月5日(日)～9月12日(土) 60日間 入館者数 7,812人

時代の変遷とともに多様化する“うつわ”の彩り、また「えーっ！」と、思わず驚きの声を出したくなるユーモラスな陶の“かたち”を紹介した。

(ウ) 「没後50年 北大路魯山人展」

平成21年9月19日(土)～12月13日(日) 75日間 入館者数23,491人

美と食の巨人・北大路魯山人の生涯にわたる制作活動を、陶芸作品、書画、篆刻および漆芸作品を通じて回顧した。また、没後50年記念特集として、これまで明らかにされることがなかった「星岡茶寮の器」も特集展示した。作品248点を展示。

(エ) 「ハンス・コパー展－20世紀陶芸の革新」

平成22年3月13日(土)～3月31日(水) 16日間 入館者数 1,340人 (平成22年度継続事業)

ハンス・コパーは、“うつわ”から立体造形へと領域を広げ、陶芸の美的価値に新たな局面を開いた作家で、イギリスの現代陶芸の基礎を築き、20世紀の陶芸に大きな足跡を残した。このハンス・コパーの日本で初めての大規模な回顧展を開催した。作品130点を展示。

(オ) 「魅せられる…今、注目される日本の陶芸」

平成21年4月1日(水)～6月15日(月) 82日間 入館者数12,002人 (平成20年度からの継続事業)

フランス国立セーブル陶磁器美術館(フランス)において海外巡回展示

平成21年8月7日(金)～10月18日(日) 63日間 入館者数13,792人

サクラメント・クロッカー美術館(アメリカ)において海外巡回展示

(カ) 陶芸館ギャラリー企画

陶芸館のギャラリースペースを活用し、「シリーズ湖国の陶芸家」と題した県内の若手作家を紹介する展覧会や、アーティスト・イン・レジデンス事業で滞在中にゲスト・アーティスト等が制作した作品の展覧会等を開催した。

「ミュージアム・スタジオ ” 廃ガラス” 未来の素材探し／時代のデザイン探し」展

平成21年4月1日(水)～4月26日(日) 23日間 入館者数 2,534人

アーティスト・イン・レジデンス企画展「井上俊一展 シガラキ金銀彩立器」

平成21年5月17日(日)～6月5日(金) 17日間 入館者数 2,275人

シリーズ湖国の陶芸家「田中哲也展 ノスタルジックな近未来の情景」

平成21年8月23日(日)～9月12日(土) 18日間 入館者数 2,766人

アーティスト・イン・レジデンス企画展「森野彰人展 装飾とかたちの企て」

平成22年3月13日(土)～3月31日(水) 16日間 入館者数 1,340人

イ 創作事業

国内外から将来性のある若手作家をスタジオ・アーティストとして受け入れ、世界各国および国内の著名な陶芸家をゲスト・アーティストとして招聘し、互いに芸術的刺激を受けながら創作活動ができる環境を提供した。

21年度より、独立行政法人国際交流基金主催の「東アジアクリエイター招聘プログラム(21世紀東アジア青少年大交流計画)」やフランスの美術工芸支援団体であるアトリエ・ダールなどと連携し、創作事業に参加する若手作家の掘り起こしを図った。

(ア) スタジオ・アーティスト 受入者数22人 (日本12人、海外10人)

(イ) 短期スタジオ・アーティスト 受入者数14人 (日本3人、海外11人)

(ウ) ゲスト・アーティスト 受入者数8人 (日本5人、海外3人)

(エ) 講演会、ワークショップの開催 4回 参加者数89人

(オ) アーティスト・イン・レジデンス展(信楽産業展示館他) 出展者数7人 (日本2人、海外5人)

(カ) インターンシップ 受入者数2人 (日本2人)

ウ 情報収集発信事業

陶芸を通じて人・もの・情報の交流により陶芸文化の普及啓発を図るため、国内外の陶芸に関する情報を収集し、ホームページや情報誌等により国内外に発信した。

エ 子どもやきもの交流事業

将来にわたる陶芸ファンの獲得を目指し、世界にひとつの宝物づくり実行委員会と連携して、陶芸の森の特性を生かしたやきものに関する鑑賞教育や体験教育の場を提供した。

(ア) 本物と出会うー総合的学習プログラム (実施回数56回、参加者数 4,489人)

学校の総合的な学習の時間における授業の一環として、地元陶芸家などが学校に出向き、子どもたちに本物の陶芸に触れる機会を提供した。

(イ) 陶芸の森来園プログラム (実施回数4回、参加者数 400人)

展覧会や野外設置作品の鑑賞のほか、陶芸家との対話や制作現場の見学、陶芸の森の穴窯や登り窯の見学など、信楽焼の伝統や進化し続ける現代陶芸を体感できる機会を提供した。

(ウ) 夏季研修会ー教育関係者を対象とした美術館普及事業 (実施回数1回、参加者数22人)

学校教育や社会教育、美術館・博物館に携わる関係者を対象に、陶芸や美術が子どもの健全な成長に果たす役割について、実際に本物に触れるなど、実践を通して考える機会を提供した。

(エ) 地域子ども教室推進事業 森・もり!やきもの大作戦 ねんどと遊ぶ

(実施回数6回、参加者数 274人)

信楽陶芸作家協会のメンバーが講師となり、休日に来園した親子が気軽に楽しく参加できる事業を展開した。

(オ) 世界にひとつの宝物づくり事業 (実施回数51回、参加者数 1,519人)

世界にひとつの宝物づくり実行委員会に参画し、地元の陶芸家やボランティアと連携して、子どもや障害者に「土」という素材を用いてものを作ることの喜びや感動を体感できる創作体験プログラムを提供した。

(4) 企画事業

ミュージアムショップの運営

展覧会図録や関連グッズ、オリジナルグッズ、陶芸関係書籍を販売した。

販売数14,490品